広報・文化部

日本人にカナダをよりよく理解してもらうため、大使館では広報・文化部を通じてさまざまな活動を行っている。広報・文化部は、およそ次の分野に分かれている。

B.バーネット1等書記官
●広報・文化統轄

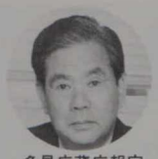
吉田健正広報官●出版物●マスメディア担当

●出版物・マスメディア担当●

広報・文化部では、広報紙『カナダ』をはじめ、カナダの政治、経済、あるいはそれぞれの州に関する『背景説明』、『近代カナダの歩み』『今日の世界におけるカナダ』といった小冊子を発行し、企業、団体、個人、図書館などに配布している。

マスメディアに対する大使館のいわば窓口で、報道資料の準備・配布、インタビューや記者会見の設定、マスコミとの応対、カナダ取材のお手伝いに当る。

●情報・渉外担当●



多昌広蔵広報官
●渉外担当

カナダと日本との姉妹都市や友好団体と協力して、日加間における国民レベルの交流を図り、日本におけるカナダ理解を推進するのが主な仕事。

またカナダ紹介のための催し物を計画準備し、地方公共団体や民間のグループから寄せられる、カナダ視察旅行やカナダの諸団体・組織などに関する問合わせに応じている。

山田栄一●一般的問合わせ●留学相談

一般の方々からも、カナダの地理や政治経済、社会、あるいは時事的なできごとなどについて、電話や手紙、または面会による問合わせや資料請求が多い。広報・文化部では、こうした問合せのほか、留学相談などにも応じている。

●文化・学術担当●

カナダと日本は、一九七六年十月、文化協定を結び、これまでの文化・学術関係をさらに発展させることになった。

L.アメル2等書記官
●文化担当

広報・文化部では、絵画展、映画祭、カナダ人演奏グループの日本公演をバックアップするほか、芸術家や美術館同士の交流および情報交換などを通じて、できるだけカナダの文化を日本に紹介するよう努めている。

縄田明子広報官
●文化・フィルム担当

学術分野における日加交流は、ここ数年、急速に活発化した。一九七六年に初めてカナダ研究講座担当教授がカナダ政府から派遣され、また日本カナダ学会が発足したのを契機に、カナダ講座をもつ大学が増え、研究者の層も厚くなった。

カナダ政府は、日本から毎年八人前後の大学教師を短期間カナダに招へいして日本におけるカナダ研究の充実・発展を図っているほか、毎年十数人の日本の学生・研究者に奨学金を提供している。

渡辺高雄広報官
●学術交流担当

●図書室担当●

小松　博
●図書・フィルム係

図書室の図書および十六ミリ映画を管理し、貸し出しを行う。図書に関する一般の問い合わせにも応じている。

図書室

図書室は大使館の別館一階にあり、カナダの歴史、地理、経済、文学など、さまざまな分野の一般図書、参考図書約三千冊のほか、カナダの主要な新聞、雑誌、主な大学の入学案内、主要都市の電話帳、カナダに関する日本語図書、それに十六ミリ映画を揃えており、大使館職員だけでなく、一般の利用者にも開放している。

開館は午前九時から午後五時半まで（十二時半から一時半までの昼食時間を除く）。

図書　利用者は来館して登録の上、借りる本を申し込む。一般図書に限り、二週間の期限で五冊まで貸し出している。

十六ミリ映画　登録の上、図書室で映画カタログを参照して借りる映画を申し込む。カタログは希望者には無料で送付している。郵便による貸し出しも可。

カナダ講座担当客員教授

D.スミス
カナダ講座担当教授

日本におけるカナダ研究の充実を図るため、カナダ外務省は一九七六年以来、カナダ講座担当客員教授を日本に派遣している。筑波大学を中心に、慶応大学、東京大学、国際基督教大学などで、カナダ講座を担当するほか、その他の大学でも依頼に応じて特別講義を開いたり、研究会に参加したりする。これまで、歴史学、地理学、政治学など、異なる分野から五人の教授が派遣されている。